

# 令和 5 年度 札幌市 英語教育改善プラン (小学校)

## 目標

学習指導要領を踏まえ、札幌市の児童が主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。(ALT等のパフォーマンステスト等の補助の状況 R4 72.6%→R5目標値80%)

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

①地域小中学校のパートナー校間による小中連携の取組状況が大幅に改善。情報交換・交流の実施による授業改善が図られている。

・R3:26.5%→R4:73.2%

②「CAN-DOリスト」の公表及び達成状況を把握している学校の割合が全校種において増加傾向。

・公表 R3:31.0%→R4:52.3%

・達成状況の把握

R3:58.4%→R4:79.7%

### 未だ改善が必要な点

①パフォーマンス評価におけるALTの活用は進んでいるものの、活用の頻度には学校差がある。

・R3:66.0%→R4:72.6%

②ALTの授業外での活用において、実施していない学校の割合が95.4%で、他校種に比べ、著しく低い状況。

## 2. 分析

①②令和 4 年度札幌市英語教育改善プランにて、接続する校種の教科書を域内全校に配付するとともに、小中連携を柱とした三つの参考資料（CAN-DOリスト・学習者用デジタル教科書・書くことの指導）を発行し、研修等で取組を促進した。

①令和 2 年度にパフォーマンス評価の実践事例を作成して周知したが、1人1台端末の普及に伴い、端末の活用及びALTの補助の好事例を改めて横展開し、評価の質を上げる必要がある。

②コロナ禍において、給食などを含め、ALTの授業外での活動が減ったため、今後は日常的な児童とのかかわりを少しずつ回復していくことが必要。

## 3. 施策・事業

### 【令和 5 年度の重点】

**ALTや外部人材等を効果的に活用し、児童生徒が主体的に英語で伝えあう「言語活動」を通じた授業づくりの充実及び適切なパフォーマンステストの実施を図る。**

①② ①②・・・「言語活動の充実のためのALTの効果的な活用」～令和 4 年度英語教育改善プラン推進事業にて、参考資料を作成・周知したことにより、改善が見られたことから、令和 5 年度も新たな視点について同様の取組を継続。

①・・・「パワーアップ研修」等の実施。～重点を踏まえた研修テーマを設定し、指導力・英語力の向上を図る。小学校英語専科指導教員の情報交流の場には専科以外の教員も参加できるよう再編成。

②・・・ALTを登用したオンライン及び対面による言語活動の機会の創出。授業外での活用が可能な外国語学習ソフトウェアの導入。

・本市の教員採用検査における、一定の英語力を有する小学校教諭受検者に対する優遇措置について、より一層周知を図っていく。

# 令和5年度 札幌市 英語教育改善プラン（中学校）

## 目標

学習指導要領を踏まえ、札幌市の生徒が主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。（「生徒の英語による言語活動の割合」において、R4 55.7%→R5目標値60%）

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

① 地域小中学校のパートナー校間による小中連携の取組状況が大幅に改善。

・R3:26.5%→R4:73.2%

情報交換・交流の実施による授業改善が図られている。

② 「CAN-DOリスト」の公表及び達成状況を把握している学校の割合が全校種において増加傾向。

・公表

R1:11.2%→R3:53.1%→R4:51.5%

・達成状況の把握

R1:18.4%→R3:61.2%→R4:54.6%

#### 未だ改善が必要な点

① 授業における生徒の英語による言語活動の割合が50%以上の学校の割合は、微増しているものの、数値としては高くない。

・R3:46.4%→R4:55.7%

② ALTを生徒のやり取りの相手として50%以上活用している割合は、64.5%で、小学校の81.7%に比べて低い。

### 2. 分析

①② 令和4年度札幌市英語教育改善プランにて、接続する校種の教科書を域内全校に配付するとともに、小中連携を柱とした三つの参考資料（CAN-DOリスト・学習者用デジタル教科書・書くことの指導）を発行し、研修等を取組を促進した。令和4年度、各学校にて小中連携を推進したことにより、校種間の相違点について理解が深まりつつある。

① 数年に渡り本市の課題となっている言語活動を通じた授業の在り方において改善を図ることが必要。

② 生徒が体験的に英語で伝え合う力を伸ばすために、ALTや外部人材等の授業内外における積極的な活用が重要。

### 3. 施策・事業

#### 【令和5年度の重点】

**ALTや外部人材等を効果的に活用し、児童生徒が主体的に英語で伝えあう「言語活動」を通じた授業づくりの充実及び適切なパフォーマンステストの実施を図る。**

①② ①②・・・「言語活動の充実のためのALTの効果的な活用」～令和4年度英語教育改善プラン推進事業にて、参考資料を作成・周知したことにより、改善が見られたことから、令和5年度も新たな視点について同様の取組を継続。

視点(1) ALTや外部人材等を効果的に活用した授業づくり

視点(2) 小中連携を踏まえた「CAN-DOリスト」に基づく

パフォーマンス評価におけるALTの活用

視点(3) 教科外におけるALTとの交流

①・・・「パワーアップ研修」等の実施。令和5年度の重点を踏まえた研修テーマを設定し、指導力・英語力の向上を図る。

<研修テーマ>

・「話すこと」「書くこと」におけるパフォーマンス評価の在り方

・ALTと創る「子どもが英語で伝えたい授業」を目指して

②・・・ALTを登用したオンライン及び対面による言語活動の機会の創出。

# 令和 5 年度 札幌市 英語教育改善プラン（高等学校）

## 目標

学習指導要領を踏まえ、札幌市の生徒が主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。（「生徒の英語による言語活動の割合」において、R4 40.0%→R5目標値50%）

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

①「CAN-DOリスト」の公表及び達成状況を把握している学校の割合が全校種において増加。高等学校においては、生徒との共有（公表）で大幅に増加。

・公表 R3:42.9%→R4:87.5%  
・達成状況の把握 R3:57.1%→R4:87.5%

②授業における教師の英語使用状況が約 5 % 増加し、改善されつつある。

### 未だ改善が必要な点

① 生徒の英語による言語活動の割合は昨年とほぼ横ばい。

・ R3:41.1%→R4:40.0%

② パフォーマンステストでスピーキングとライティングの両方実施した学校の割合が大幅に増加。

・ R3:43.4%→R4:60.6%

パフォーマンステストでのALT活用状況は学校によって異なる。

## 2. 分析

①②令和 4 年度札幌市英語教育改善プランにて、接続する校種の教科書を域内全校に配付するとともに、教科別研究協議会で、学習指導要領に基づいた指導及び評価の在り方等についての協議を通して理解が深まったことにより、改善が見られる。

① ALTや外部人材等を積極的に活用し、生徒が自分の考えや思い等を英語で伝え合う言語活動を通じた授業づくりを図ることが重要。

② 学習指導要領の改訂の趣旨の理解を深め、言語活動を通じた授業づくりと適切なパフォーマンス評価の実施において、指導と評価の一体化を図ることが必要。

## 3. 施策・事業

### 【令和 5 年度の重点】

**ALTや外部人材等を効果的に活用し、児童生徒が主体的に英語で伝え合う「言語活動」を通じた授業づくりの充実及び適切なパフォーマンステストの実施を図る。**

①② ①②・・・「言語活動の充実を図るためのALTの効果的な活用」～令和 4 年度英語教育改善プラン推進事業にて、参考資料を作成・周知したことにより、改善が見られたことから、令和 5 年度も新たな視点について同様の取組を継続。

視点(1) ALTや外部人材等を効果的に活用した授業づくり  
視点(2) 小中高連携を踏まえた「CAN-DOリスト」に基づくパフォーマンス評価におけるALTの活用  
視点(3) 教科外におけるALTとの交流

①②・・・「パワーアップ研修」等の実施。令和 5 年度の重点を踏まえた研修テーマを設定し、指導力・英語力の向上を図る。

<研修テーマ>

・「話すこと」「書くこと」におけるパフォーマンス評価の在り方  
・ALTとつくる「子どもが英語で伝えたい授業」を目指して